

平成 30 年の新しい年を迎えて

長崎県技術士会 会長 山口 和登

新年あけましておめでとうございます。旧年中は会員の皆様に多大なるご協力、ご支援をいただき大変感謝しております。昨年 6 月の総会において会長に再選され、年頭の辞を述べるのも今回で 7 回目となります。昨年の活動状況を回顧し、今年の活動抱負を述べ、さらに将来の技術士会のあり方等について述べて、新年の御挨拶と致します。

昨年の報告ですが、会員数の拡大については平成 24 年末が 145 名、25 年末が 150 名、26 年末が 158 名と順調に増加してきましたが、27 年、28 年と 2 年間に渡り長期会費未納者の削除等を行った結果 28 年末には 161 名と微増なりましたが、29 年末には 167 名と順調に会員数を伸ばしました。多くの学会等が会員数の大枠減少に苦しんでいる中、会員数が伸びたことは大変喜ばしいことです。会員名簿については昨年も 350 部の作成を行い、会員のみならず長崎県、長崎大学、国土交通省等の関係機関及び三菱関連企業等に配布を行い、長崎県技術士会自体及び会員の知名度の向上等に毎年努めています。

機関紙 APREN も定期的に年 4 回の発刊、配信を行い、今回で第 60 号となりました。長崎地盤研究会や産業基盤維持管理技術研究会など関係学会、関係協会、公益財団法人長崎県建設技術研究センター（ナーチ）をはじめとする関係団体の主催する技術講習会、見学会、技術フェアなどの行事の後援やそれらの行事へ参加、講師の派遣等も

実施してきました。これらに施策については今年も継続、拡充していく所存であります。

また、ホームページの管理は一昨年より県技術士会の独自管理とし、長崎県技術士会情報配信局とし、多くの行事案内やホームページの充実と迅速化等に努めてまいりました。ホームページをさらに充実、有益とするために、内容等に対するご意見、要望等をお知らせ頂ければ幸いです。

長崎大学との連携ですが一昨年末に長崎大学工学部工学科社会環境デザインコースの JABEE 認定プログラムに準じて長崎県技術士会が協力して第 2 回目の講演会を実施し、今年の 1 月には第 3 回目の講演会を実施する予定です。この講演会の詳細については次回 4 月の機関紙第 61 号で詳細に報告しますのでそちらをご参照ください。

公益社団法人日本技術士会九州本部長崎県支部（毎熊元支部長）との連携はさらに具体的な連携が強化促進され、特に CPD 研修会や CPD 見学会が充実してきています。長崎県支部の支部長をはじめとする役員はすべて長崎県技術士会の役員から成っており、また研修会や見学会はすべて県支部と県技術士会の共催としております。今年も日本技術士会長崎県支部とはより物心両面でさらに連携し、県内外での活動をより活性化する所存であります。

以上、技術士会の活動状況及び今年の活動抱負について述べましたが、将来的にはこの会がさらに充実し、活動が活発になることが会員の増加ひいては会の発展、社会への貢献増大につながるものと確信しております。一般の会社であれば、增收増益、利益の還元と言う具体的な数値で社会への

貢献等を図ることも可能ですが、技術士会や学会等は一つの指標として具体的な数値である会員数の増加と言う点が挙げられます。会員数を増加させるには、魅力ある会であることが必要不可欠であります。魅力ある会とは納められる会費以上の価値、例えば情報であり、人脈であり、信用であり、自己啓発の場であったりします。この価値を高める場として技術士会が存在価値を高めることが会員增加に繋がるものと思います。具体的な会員数としては、現在の 167 名が近いうちに 200 名を超える会員数となることが当面の数値目標です。

年の初めに当たり例年のように長崎県技術士会の状況、当面の活動抱負、将来像等について述べましたが、長崎県技術士会の運営につきましては役員をはじめ会員各位のご協力、ご支援が不可欠であります。会員増強に向けてよろしくお願ひ申し上げます。

最後となりましたが今年の皆様のご健康、ご繁栄、ご多幸を祈念しまして新年の御挨拶といたします。

平成29年度 日本技術士会

長崎県支部第2回CPD見学会報告

長崎県支部 折田 定良
(建設・長崎)

10月25日、長崎県支部第2回CPD研修会で、島原半島ジオパーク認定ガイド長谷川重雄氏を講師として、『島原半島成り立ちを巡る』というテーマで開催しましたので報告します。

今回研修会の見学コースと、その見どころを紹介します。

①口之津町 早崎海岸

島原半島の成り立ちは約450万年前に最南端の早崎海岸付近の海底噴火から始まったということで、海岸付近の火碎流堆積物やそれを覆う玄武岩溶岩などを見学した(写真-1)。



写真-1

②加津佐町 女島→両子(ふたご)岩

加津佐町南西の海岸には、前浜、野田浜の美しい砂浜とそれに挟まれた険しい断崖絶壁を有する岩戸山、女島が対比される。約150万年前の玄武岩マグマによる水蒸気爆発の産物ということで、周辺の口之津層群からなるやさしい地形と、侵食に伴い現れた険しい崖が対照的である。

また、“岸(きし)総理”で馴染み深い両子岩は以前、名前のとおり2人居たそうであるが、もう一人は根っこだけとなって海岸に痕跡を残している(写真-2)。



写真-2

③南串山町 国崎海岸→棚畠展望所→花房展望所

南串山の国崎海岸も壮大なお話であり、橘湾を挟んで対峙する諫早南部の有喜火山と国崎安山岩は、130万年前は陸続きの大きなひとつの火山であり、その中心部は橘湾に沈んでいるということであった。南串山町の国東半島や白頭付近には海に向かってせり上がる不思議な地形がみられるが、これが橘湾に沈んでいる巨大火山の山裾の名残ということであった（写真-3）。



写真-3

④南有馬町 原城海岸

天草の乱で名高い南有馬町原城は、世界遺産登録に向けてイコモスの審査が完了したばかりということで、除草や清掃が行き届いていた。この付近には約9万年前の阿蘇4火碎流堆積物が約10m 火山灰層として分布しているとのことで、なぜこの付近だけに阿蘇の火山灰が限定的に残っているかは不明である（写真-4）。



写真-4

⑤北有馬町 龍石海岸

最後に北有馬町の龍石海岸に立ち寄ったが、ここは約50万年前に活動を始めた雲仙火山の最初の火山堆積物が見られる箇所として知られている。砂岩・チャート礫からなる口之津層群の上に、軽石を含む黄色い火山灰層とその上に土石流堆積部がみられるが、厚さ1m程度の黄色い地層が雲仙火山の始まりを示す地層であるとの説明であった（写真-5）。



写真-5

近年、雲仙普賢岳の噴火や、島原半島ジオパークなどで何かと話題の多い島原地区ではあるが、身近なところでダイナミックな地球の営みが続けられていることに改めて気づかされる。さらに、雲仙岳もいすれば海の底に没するという衝撃的な事実を前に我々が築いてきた土木的な働きかけが

なんと小さいことか、宅地開発や道路、防災に伴う河川工事なども地球にとっては一瞬の出来事であり、いずれ跡形もなく消え去る運命であることを考えるとどこか爽快で愉快な気持ちになれた勉強会であった。

(E-mail : hasiguchi@hasikan.com)

***** 計報 *****

平成29年10月24日に永らく長崎県技術士会、日本技術士会の役員を務められた大橋義美氏がご逝去されました。享年79歳であられました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

大橋技術士は平成3年4月に日本技術士会（長崎県技術士会）に入会され、平成15年6月から25年6月までの永きにわたり長崎地区代表幹事、その後亡くなるまで長崎県技術士会理事、日本技術士会長崎県支部幹事を務められました。

大橋技術士の職歴は三菱重工業(株)長崎造船所、西日本菱重興産(株)、(株)大島造船所に勤務されました。その間、明治産業遺産の世界遺産登録に際しての活躍など多方面で活動されました。大橋技術士の活躍等については当機関紙において後日特集を組みますので大橋技術士の思い出などの多数の投稿をお願いします。

※ 機関紙発行担当からのお知らせ

(1) 第3回CPD研修会のお知らせ

今年度の第3回CPD研修会を平成30年1月20日（土）、13:00～17:30（受付13:30から）に「L&Lホテルセンリュウ」にて開催しますので、多くの会員の皆様の参加をよろしくお願ひいたします。

(2) 編集後記

新年、明けましておめでとうございます。会長の記事に有りますように長崎県技術士会の会員数が増加しています。第2回のCPD現場見学会の報告を折田定良技術士様から頂きました。有り難うございました。

1月の長崎大学の技術士会講義にも長崎県技術士会の方が講演される予定です。益々、会員の皆様が、研修会、APREN記事投稿などに参加して頂き、当会の活動を活性化・支援していただきますようよろしくお願いいたします。

※ 機関紙発行担当の連絡先 園田直志
sonoda_naoshi@icloud.com